

ORACLE

# 財務・会計が今すぐ行うべき 4つの大変革

予測不可能な未来で成長を取り戻し生き残る



# はじめに

アルベルト・アインシュタインの名言に、「困難の中に、チャンスがある。(In the middle of difficulty lies opportunity.)」というものがああります。COVID-19 (新型コロナウイルス感染症) は、デジタルセールモデルの導入、消費者行動のシフトへの適合、または新規競合相手への対応のいずれにおいても、企業がビジネスを行う方法を根本的に変化させています。しかし、変化のための準備ができていた組織や現在急速に変化を受け入れている組織は、前代未聞の挑戦を成長に変えることができるのです。

「タッチレス決済、ロボティクス、オンライン取引、分散型労働力を支援するのに必要なインフラといった、時代の変化への迅速な適応を可能にするテクノロジーを備えていた企業は、コロナ時代に最も有利な立場にいました。」とウォールストリートジャーナル紙 [2020年9月号\(英語\)](#) は指摘しています。「当面、それら企業の成功はビジネス世界を定義付け、再形成するものとなるでしょう。」

CFO は、競争の先頭に立つための大変革を遂げるべく、ビジネスモデルのシフト、変化を支援するための合併買収 (M&A) または事業分割の活用、財務・会計とリスク管理を加速するためにオートメーションへの投資をリードしています。

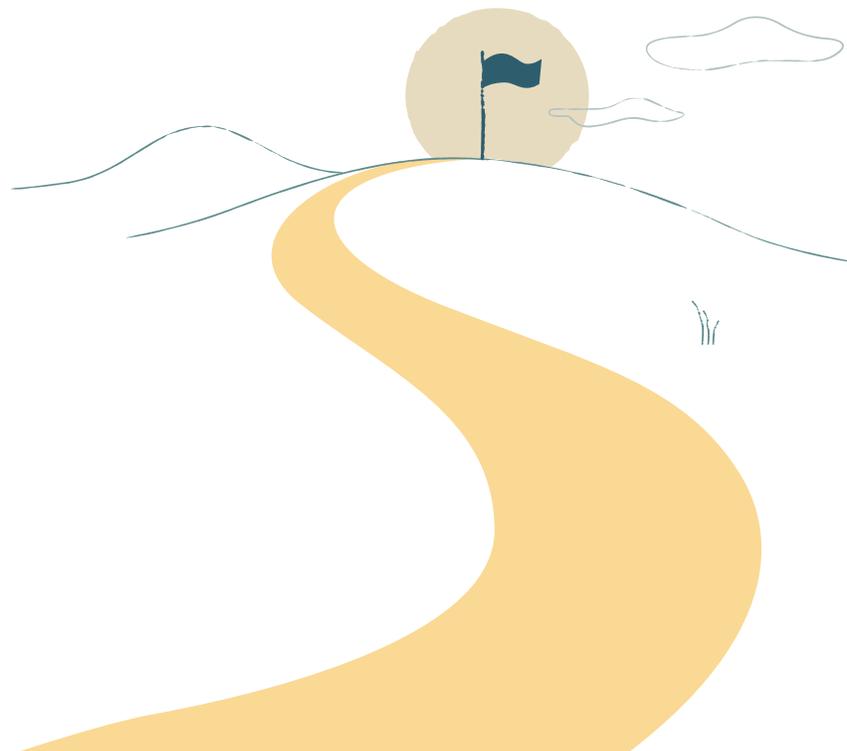
オラクルでは、2020年以前の時点でプロセス、テクノロジー、労働力のモダン化を図っていた結果、COVID-19による世界的な経済危機に面しても成功を収めた多くの企業を実際に見ています。

40以上のクラウドアプリケーションを導入した FedEx Service の例を考えてみてください。「パンデミックよりずっと以前にイノベーションを制度化し、継続的にビジネスの一環とすることにより、いざというときに頼れる強固な基盤を持つことができている。」と FedEx Services ビジネストラנסフォーメーションのバイスプレジデント、Chris Wood 氏は述べました。Cloud Enterprise Performance Management (EPM) と Cloud Supply Chain Management (SCM) ソリューションは、FedEx 社のますます複雑化する財務諸表とグローバル物流に可視性を与えています。

一方、Western Digital 社では財務・会計とサプライチェーンにおいて統合クラウドプラットフォームに移行するという決定により、パンデミックの間も柔軟性を保つために迅速な方向転換を行うことができました。「在宅勤務の指示が出て数日以内に、ツールの使用とボリュームに関してコロナ以前の4～15倍ものスケールアップを行いました。」と同社の前 CIO、Steve Phillpott 氏は述べました。

CFO は、競争の先頭に立つための大変革を遂げるべく、ビジネスモデルのシフト、変化を支援するための合併買収 (M&A) または事業分割の活用、決算とリスク管理を加速するためにオートメーションへの投資を行っています。

実に、世界的な健康・経済危機は、内部プロセスから、製品、サービス、顧客対応のすべてにわたるデジタル化を加速させています。[McKinsey & Company 実施のグローバル経営幹部に対するアンケート調査\(英語\)](#)によれば、リモートワークの場合、パンデミック以前に可能と考えられていたよりも、企業が40倍以上速く動いていることが明らかになりました。2019年9月から2020年7月までに、一部または全体がデジタル化された製品やサービスの世界平均シェアは55%に跳ね上がりました。これは2017年から2019年までの平均普及スピードの7年先をいっています。



その同時期に、企業とオンラインで交流する顧客ニーズの高まりに後押しされ、デジタル化された顧客対応の平均シェアは58%に達しました。調査によると、顧客対応の少なくとも80%がデジタルであるとする回答者は、パンデミック以前に比べて現在は3倍という結果になりました。

## コロナ経済とその先の財務・会計の役割

企業の多くは、世界的な危機に対応してレジリエンスの構築と維持を行うことができたか、あるいは低迷からの回復を開始し安定化を図ることができたため、再び未来へ焦点を合わせ、次に生じる事柄に対応する準備が整っています。CFOとそのチームはすでに、変化のペースに対応するために必要なスキルやプロセスで財務・会計チームを構築するプレッシャーを感じていましたが、今では、進むべき道に確実に投資するため、会社の設備を一新するにあたり企業の各部門のリーダーとパートナーを組んで取り組むことができている。

オラクルのCEO Safra Catz氏を含む専門家は、小さな変化では十分ではないという意見に同意しています。企業が競争の先頭に立つには、大きく革新的な動きが必要です。オラクルには、M&A活動からR&Dへの年間61億ドル以上の投資、顧客および従業員体験の向上、全レガシーシステムのクラウドへの移行による中核事業の変革に至るまで、経済低迷の間にこれらの革新的な動きを行ってきた歴史があります(補足記事「低迷の一步先を行く」を参照してください)。「今こそアクセルを踏み込むべき時です。」とCatz氏は述べました。「スピードを速めるのはリスクが大きい、とよく言われますが、スピードが遅いことのリスクの方が大きい、と私は思います。」

McKinsey & Company社コーポレートビジネス部門の前パートナー、Kyle Hawke氏は、パンデミックによってもたらされた混乱に耐えるため、組織が大胆な意思決定を行うべきであることに同意しました。「今こそいかなる漸進的な考えも棚上げして、企業内の特定の小集団において5~10%ではなく、30~40%の収益拡大またはコスト削減につながる革新的な計画を探し出す時です。」と国際公認職業会計士協会(AICPAおよびCIMA)が最近制作したウェブキャストシリーズの参加者に対して、同氏は述べました。また同氏は、[McKinsey & Company社実施の調査\(英語\)](#)を引用し、前回の金融危機において市場を上回る実績を上げた企業は、他社と比べてより頻繁に生産性の向上を追求していたこと、さらに回復期間中の成長力を生み出すために、同業他社に比べて運用コストを3倍削減したことを明らかにしました。

## 低迷の一步先を行く

クラウドへの投資がオラクルの方向転換を支えた3つの方法

顧客、パートナー、従業員のニーズと期待が変化の中で常に一步先を行くため、当社は2020年より前に独自のビジネストラansフォーメーションに着手しました。つまり、Oracle Cloudアプリケーションの完全なスイートの導入です。これにより、危機に直面する中でもレジリエンスのある有利な立場に立つことができました。

この投資は、ビジネス全体にわたって継続的な利益を上げています。財務・会計とオペレーションでは、特に以下のような重要な結果をもたらしています。

- 1 財務計画におけるスピードと正確性の向上**  
Oracle Fusion Cloud EPMは、シナリオモデリングと財務連結を迅速に処理し、財務・会計がビジネスリーダーにリアルタイムでレコメンデーションを提供し、正確なプランニングを行うことを可能にします。「新型コロナウイルス感染症の打撃を受けた時、当社はシナリオプランニングを利用して収益源と記帳への潜在的な影響や、営業および開発リソースの投資を行う分野を特定しました。」とオラクルのグローバルビジネスファイナンス担当バイスプレジデント、Ivgen Guner氏は述べました。
- 2 グローバルアカウント調整が1時間半で可能に**  
Oracle Fusion Cloud ERPのアカウントのグローバルチャートとグローバルレポートを活用して、貸借対照表勘定科目の調整をグローバルレベルで行うことで、時間の短縮、リスクの軽減、エラーの削減が可能になります。また、オンプレミスERPで1週間かかっていた、数百の子会社の会社間勘定の調整を2時間以内で終わらせます。
- 3 サプライチェーン需要の変化に対応するアジリティ**  
「関税の引き上げへの対応として、また調達を多様化するため、すでにオペレーションの拠点を中国からテキサスへ移動させていました。」とオラクルのサプライチェーン戦略およびプロセス担当シニアディレクター、Giovanni Schoordijk氏は述べました。「これにより、コロナ禍でも生き残ることができました。」Oracle Fusion Cloud SCMのおかげで、同氏のチームは変化にも迅速に対応することができています。例として、世界中の供給や労働力の制約に対応する調達に柔軟性があるため、コロナウイルスによるロックダウンパターン、需要の急増、予算の制約を反映できるよう需要計画に頻繁に調整を行うことができています。

オラクルのトランスフォーメーションについて、[詳しくはこちら](#)をご覧ください。

# 財務・会計主導の成長 に向けての土台作り

「企業が大変革を行うには、レジリエンス（回復力）のある、アジャイルな、革新的で、先進的な財務・会計部門のサポートが必要です。」とオラクルのグローバルビジネスファイナンス担当バイスプレジデント、Ivgen Guner氏は述べました。同氏は、有意義な仕方方向転換を行えるよう、チームに力を与える新たな財務スキルとテクノロジーに投資することにより、財務計画と分析（FP&A）の役割強化を行っています。これは EPM の完全なスイートを構成する一連のプロセス、つまり計画と予測だけでなく、決算と報告の最適化を行うことも意味します。

Cloud EPM ソリューションは、計り知れない価値をもたらしています。コロナ禍のような異常事態の影響を分析したり、財務部門にとどまらず全事業部の計画を迅速に調整（および再調整）したりする際には不十分な、スプレッドシート、従来型オンプレミスのツール、ニッチソリューションなどに代わるものを提供しているのです。

先進的な財務・会計チームは、成長に向けての変化と計画をリードするにあたり、3つの具体的な方法でクラウドベースの EPM アプリケーションを利用しています。

「企業が大変動を行うには、レジリエンス（回復力）のある、アジャイルな、革新的で、先進的な財務・会計部門のサポートが必要です。」

Ivgen Guner

オラクル グローバルビジネスファイナンス担当 EVP

## 未来を可視化する複数のシナリオをモデリング

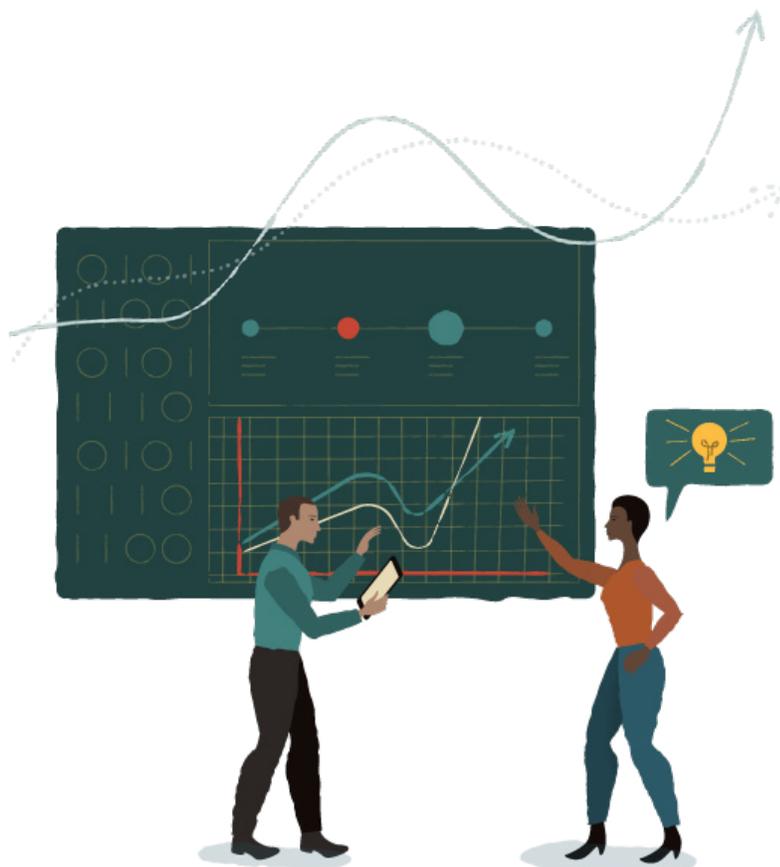
[AICPA-CIMA が主催したウェブキャスト「Agile Finance Reimagined（アジャイル・ファイナンスの再構築）」](#)配信中に参加者アンケートが実施され、「コロナ禍により、どんな戦略を導入したか、あるいは採用を検討しているか」が問われました。最も回答が多かった戦略は、1000人以上の回答者のうち23%が挙げた、シナリオプランニングでした。不確実な時代に、この戦略的なプランニング方法を使用すれば、財務・会計部門は

「もし〜なら」というシナリオを複数可視化し、シナリオごとにどう対処するのが最適なのかを評価し、機敏に対応することができます。バランスシートを強化し、資金予測を最適化するための戦略を特定することもできます。Lululemon 社を含め企業の多くは、Oracle Fusion Cloud EPM を使ったシナリオモデリングにより不確実性に対応して意思決定を導き出せるようになりました。

## 新たなビジネスチャンスを開発するためのコスト理解

組織は未来の再構築にあたり、自社の最も高収益な、および最も低収益な事業部門、場所、製品を見極めることにより、必要に応じてリソースをシフトできるようにしています。Profitability and Cost Management ソリューションは、コスト削減を行う分野を特定し、投資のチャンスを見出すのを助けます。

ゼロベース予算編成は、単に前年度の支出を修正するのではなく、財務・会計部門が正当化されたニーズのあるコストだけに基づいて毎年予算を作成する手法ですが、この手法もまたリソース配置の面で鍵となります。エンタープライズ全体の把握と厳密な出費への理解を深めることができるため、コスト管理を行い必要に応じて優先順位付けを見直すことができます。従来の



予算編成よりも詳細で緻密な手法であるため、より正確でもあります。この手法は Argo Group International 社のようなオラクルのお客様には最適で、保険業界で使用される主要業績評価指標である経費率を 250 ベースポイント低下させました。

## コミュニケーションと報告の向上

戦略を策定後、財務・会計部門はそれを事業の主要利害関係者や投資家に報告する必要があります。主要利害関係者に対して数値への自信を与え、「なぜ数値が元の予測と一致しないのか」、「なぜ～をせずに、～をしているのか」といった必然的な疑問の答えを出すことは、かつてないほど重要になっています。ここで際立ってくるのは、財務・会計部門が質の高い企業データと豊かなナラティブテキストを組み合わせて、より詳細で明確な情報の提供を可能にするナラティブレポートツールです。EPM の価値に関するオラクルの調査によると、企業の 90% はこういった種類の定性的なコメントの重要性に同意しています。とはいえ、企業の多くはデータ収集にほとんどの時間を充てているため、数字の意味するところを説明することができていません。ナラティブレポートは、レポートプロセスに正確性と一貫性を与え、社内外の論議をより良いものとしします。



# 財務・会計が 今すぐ行うべき 4つの大変革

計画プロセスとその先において、CFO とそのチームはビジネスを前進させる 4 つの主要なチャンスと成功につながるテクノロジーに注意を払う必要があります。

## 1 ビジネスモデルイノベーションの採用

コロナ禍での顧客行動の急速な変化で、1 つのことが明らかになっています。それは、組織が生き残り、競争の先頭に立ち、再成長するには、イノベーションを行い迅速に対応しなくてはならないということです。企業は新たな製品やサービスを立ち上げ、ビジネスモデルを再考しています。大学はオンライン教育プログラムにシフトしており、小売店はモールを諦めてネット通販やモール外の場所を選ぶようになってきました。B2B 企業や団体はオンラインイベントをネット上のフォーラムに切り替えています。AICPA-CIMA のウェブキャストシリーズの世界各地からの参加者に実施されたアンケートで、1000 人以上の回答者のうち 46% が、パンデミックの次のフェーズで企業の競争優位性を得るための準備として新たなビジネスモデルに注力している、と述べました。同様に、PwC が最近実施した [US CFO Pulse Survey \(US CFO パルスサーベイ\)](#) によると、収益源を再構築し強化するために、製品とサービスを変更することは最も重要であると見なされていることがわかりました。

今後大きく成長しようとしている業界がその実体を現し始めており、それらを定義づける企業には 3 つの特徴があります。

- 安定した経常収益源を提供するサービスベースのビジネスモデルを立ち上げている。フィットネス業界を例に挙げると、エクササイズ器具を販売するブランドの多くはストーリーミングやオンデマンドクラスの提供を追加しました。
- 自動化とプロセスの最適化への徹底した注力により、変化に面しても迅速に方向転換できる。
- イノベーションとデジタル体験を通して、優れた顧客サービスを提供する継続的なコミットメントがある。

FedEx Services にとってのイノベーションとは、すでに進行中であったデジタルトランスフォーメーションの上にさらに構築することでした。

「オペレーションを持続させ、従業員のやる気を維持し、顧客を安心させるリーダーシップがかつてないほど重要になっています。」と Wood 氏は述べました。FedEx は、コロナによるロックダウンの初めの段階から必要不可欠なビジネスと見なされていたため、同氏のチームは管理および運営のサポートの強化を継続し、「すべての人に最高のFedEx 体験を」届けるために、「パールプロミス賞」を維持することに注力してきました。同氏はまた、企業の従業員にも FedEx が顧客に提供したのと同様のデジタル化と向上からの恩恵を受けてほしいと願っています。その目的で、FedEx は組織全体にわたり、EPM、ERP、SCM、アナリティクス、デジタルアシスタントを含む Oracle Cloud アプリケーションを導入しました。

## Broadcom 社が新たなビジネスモデルでスケールアップ

イノベーションでリードすることには課題が伴います。Broadcom 社がコア半導体ビジネスを超えて多様化するため、Brocade Communications Systems 社を買収したとき、ポートフォリオに全く新しい製品カテゴリーが追加され、複雑さが増大しました。Brocade 社が顧客に提供していたサブスクリプションサービスといった、新たな収益モデルを追跡することも必要になりました。新たな課題に対処するため、Broadcom 社は自社の PLM と収益管理システムを Oracle Cloud へ移行しました。

詳しくは動画から (英語 2:16):



成長のチャンスをも十分に生かし、ビジネスモデル、リソース、人材が方向転換できるよう、現在クラウドはかつてないほどに業界の混乱要因に力を与えています。高度なクラウドプラットフォームは、ビルトインの新たなテクノロジーによるプロセスの自動化、および継続的なアップデートと改善を提供しています。「当社は、年間 60 億ドルを費やして調査と開発にコミットしており、そのビジョンに向けてイノベーションの努力を常に再形成しています。」とオラクルの Guner 氏は述べています。「AI、機械学習、自律型機能に注力し、クラウドアプリケーションのセット提供を強化しています。」

CFO は、イノベーションに力を与えるため、ビジネス全体にわたるメリットを提供する以下のクラウドアプリケーションに投資しています。

**財務・会計:** Cloud ERP と EPM ソリューションは、以下を提供します:

1. 設備投資費 (CapEx) から運用費 (OpEx) へ移行する Cost Management ツール。物理的資産からサブスクリプションモデルのようなデジタル資産へのシフトをサポート。
2. 新たな製品/サービスの開発を追跡し、プロジェクトを予算内に完成させる Project Management ツール。
3. 会計基準に準拠して、年間経常収益 (ARR) の認識とレポートを行う Revenue Management ツール。
4. 財務・会計部門が新たなシナリオのモデリングし、新たな製品、サービスまたは子会社のような事業部門のコストと収益性の分析を行うのを支援するツール。
5. 組織全体にわたってリスクインテリジェンスを高めるための、ネイティブの統合型 Risk Management ツール。

**サプライチェーン:** クラウドベースの Product Lifecycle Management (PLM) ソリューションは、サプライチェーンのリーダーが企業の目的に最も沿った投資を見極めるのを助け、新たな製品の迅速な設計と立ち上げを可能にします。さらに、Internet of Things (IoT) ソリューションは、現在の製品を向上させ、よりスマートにするため、連携したデバイスからデータを収集します。

**人事管理:** Cloud Human Capital Management は、チーフイノベーションオフィサーのような新たな役割や、アナリティクスのような需要の高いスキルのために適切な人材を採用できるように採用担当者を支援します。

**カスタマーエクスペリエンス:** Subscription Management と CPQ (構成、価格、見積もり) を含むクラウドベースの CX 機能により、顧客への請求、サブスクリプションのサインアップまたは変更を行うセルフサービスツールの提供、新しく複雑な製品の構成と価格設定を迅速に行うことが可能になります。

## 2 M&A と事業分割活用し企業の方向転換をサポート

経済危機は、市場価格以下で企業を買収する、または不採算事業から投資撤退するチャンスです。そのため、2020年の夏はここ数十年の間で合併・買収が最も多かったのも、驚くにはあたりません。ロイターによると、第3四半期だけで、世界中で総額1兆ドル以上のM&A取引(英語)が行われました。

M&Aは、企業の中核事業の上に構築するか、または周辺市場へ企業を拡張して、ビジネスモデルのイノベーション戦略をサポートします。逆に、不良資産からの投資撤退、またはより価値の高い活動へのリソースのシフトにより、組織はビジネスを強化することができます。

しかし、売買が急がれる中で、財務・会計は最適なM&Aターゲットの特定、新たな部門の準備、分割の影響のモデリング、新たな企業・システム・従業員の統合において正確に行動しなくてはなりません。CFOにとって重要でありながらも、見過ごされがちなのは「信頼性の高い単一の財務データソースを確保するために、どのように新しいデータとプロセスを吸収するか?」という問題です。

**Western Digital 社**は、フォーチュン500規模の3つの企業、Western Digital、SanDisk、HGSTとそれぞれの別個のERPシステムを合併したとき、この課題に直面しました。「データを取得した瞬間から、データからレポートを生成するまでの、エンドツーエンドなプロセスの合理化を望んでいました。」と同社のシニアディレクター、Billy Roy氏は述べました。Western Digital社は、3つのシステムの間でデータを移動するよりもむしろ、Oracle Fusion Cloud ERPを導入し、ビジネスをクラウドの中に再構築する選択をしました。

成長戦略の管理を容易にするため、Adventist Health 社がいかに Enterprise Data Management を利用したのか、詳しくはこちら。



CFOは、M&A、分割、子会社に力を与えるため、ビジネス全体にわたるメリットを提供する以下のクラウドアプリケーションに投資しています。

**財務・会計:**シナリオモデリングは、M&Aと事業分割の結果を評価し、プランニングの向上を助けます。Enterprise Data Management (EDM)は、合併会社からの個別アプリケーションのデータ構造を連携します。

Cloud ERPソリューションは、エンタープライズ全体の財務プロセス、企業会計、財務・会計報告のための会計プラットフォーム、企業会計およびFP&A間の単一の財務データソースを提供します。

**サプライチェーン:**M&A活動が完了すると、Cloud SCMソリューションは、在庫の最適化、倉庫利用の改善、輸送要件の統合をサポートします。また、統合されたリアルタイムレポート、アナリティクス、共通データ全体にわたるプランニングを利用して、製造およびサプライチェーン業務にわたるプロセスの効率を向上させます。

**人事管理:**クラウドベースのソリューション、Global HR、Payroll、Benefitsは、買収した会社からの新しい人材の受け入れ、または分割した会社から従業員を退職させるプロセスの合理化を図ります。

### 3 決算の自動化を加速する

デジタルビジネスモデルへの移行、買収、新製品やサービスの導入といった大変革は、依然として財務・会計プロセスを手作業で行っている場合は特に、決算処理の遅延や誤りを生じさせることがあります。手作業の決算処理は、ビジネスが正常に機能していることを確認する必要のある社外関係者への結果報告プロセスを遅らせるため、迅速なシフトを行えず、市場での成功の遅れにもつながります。

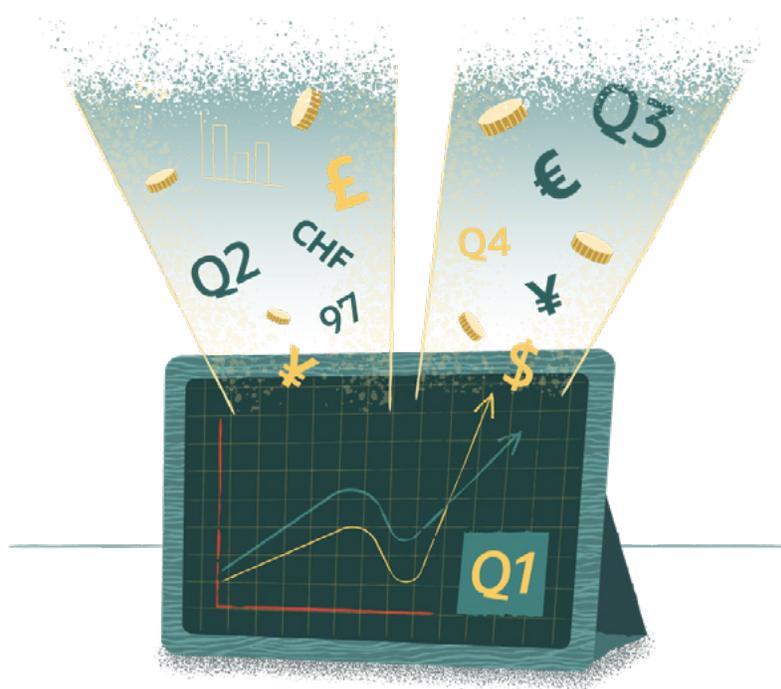
機械学習とインテリジェントプロセスの自動化機能を備えたクラウドベースのソリューションは、迅速な決算処理を行い、変化にも柔軟かつ容易に対応することができます。これは、不確実な時代に最も重要なことと言えるでしょう。買収の結果、子会社を作ったことを想像してみてください。突如として、少数株主持分の計算をする必要が生じます。適切なクラウドソフトウェアがあれば、このための自動計算を行うことができます。IT 部門や外部のコンサルタントの助けなしに、オンにするだけで、瞬時に結果を取得することができます。

自転車部品の世界的メーカー SRAM 社は、連結会計と決算のため Oracle Cloud EPM を最小限の IT 労力で導入することができました。同社は成長を続ける企業として、会社間消去および為替換算を含む複雑な要件を満たすため、タッチレスオートメーションを追求しました。

決算処理を向上させるクラウドソリューションのその他の機能は、以下のとおりです。

- ビジネスへのインサイトを強化する高度な分析
- アカウント調整、連結会計と決算、エンタープライズデータ管理、税務申告、ナラティブレポートなどの高度な機能と自動化
- 単一のクラウドプラットフォームでこれらの財務タスクを連携する能力

オラクルは、月次会計帳簿の決算処理を自動化するという目標に向かって大きな進歩を遂げています。2020 年 3 月、財務・会計部門はパンデミックのため在宅勤務であったにもかかわらず、決算処理にかかる時間を 20% 短縮しました。「当社は決算にかかる時間の短縮を目指していますが、リモートワーク中に達成できるとは素晴らしいことです。」とオラクルのシニアバイスプレジデント兼アシスタントコーポレートコントローラーである Maria Smith 氏は述べています。「クラウドを使った業務は、私たちに比べて平常業務と同じです。」



オラクルが Oracle Cloud ERP の導入を始めてから実感しているメリットとしては、全世界の銀行取引の約 94% が現在自動で照合されていること、数百の法人間のグローバルな会社間債権および債務残高が 90 分以内に照合されること、経費配分が 98% 減少したこと、全世界の発注の見越し額の計上がわずか 3 時間以内に完了すること、そして今まで、複数元帳／複数通貨仕訳によって、手作業で行っていた会計処理が 42% 減少していることが挙げられます。これらのメリットの結果、オラクルは今では 10 日間で四半期を締めくり、ウォールストリートに収益を報告することができます。

Smith 氏の次なる目標は、継続的な決算処理の自動化です。「自動的な決算処理では、コールセンターで入力される人々に関するデータ、報酬および福利厚生データ、顧客、収益および売上に関するデータなど、毎日毎秒の継続的なデータフローを扱います。」と Smith 氏は述べました。オラクルは、HR、ERP、顧客、サプライチェーンなどこれらすべてのデータを共通のデータモデルを持つ統合されたクラウドで提供します。

## リスクインテリジェントな (リスクを配慮した) 企業文化の構築

成長とトランスフォーメーションの促進は、企業の最も重要な極秘データをリスクにさらす可能性も生み出します。買収は企業のデータを増大させ、IoT、モバイルやその他のデジタルテクノロジーの拡張は、新たなアクセスポイントを作り出し、データを漏洩させるリスクを生じさせます。

### データが急増し続ける時代にいかにデータ管理を行うか？

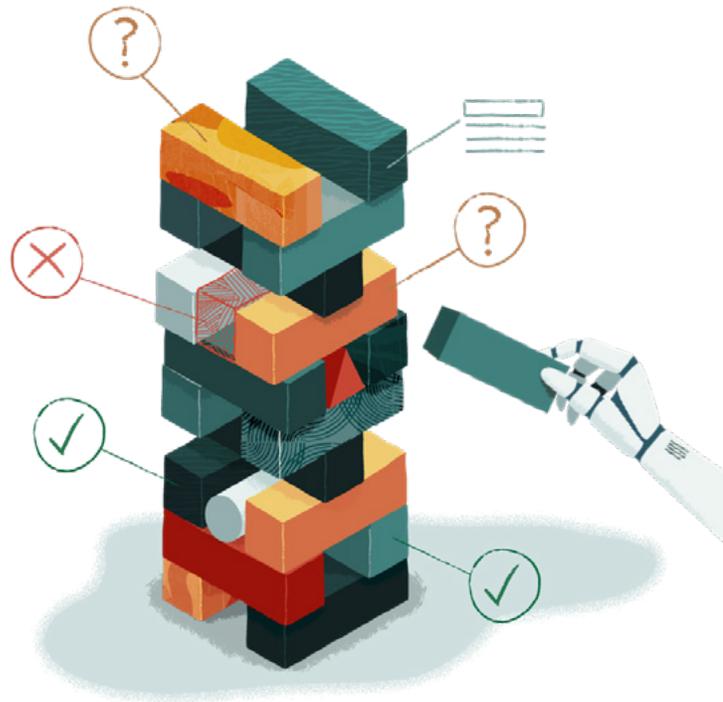
初めに、セキュリティ、リスク、コンプライアンスへの十分に統合されたリスク管理が必要になります。これにより、いかなる構造的または事業的なモデル変更があっても、ブランドの評判や収益に消極的な影響を与える新たなリスクを招くのを避けることができます。さらに、リスク管理やリスク回避を行う業務プロセス担当者への権限付与、リスクに基づいた意思決定および経営幹部による監督機能の強化を行うリスクインテリジェントな (リスクを配慮した) 企業文化チャーを作り出すことが求められます。

新たな企業、子会社、ビジネスモデルを加えることは、セキュリティと監査の一元化と自動化を行うチャンスになります。財務・会計リーダーは、重要な ERP または極秘データを保護するため、絶対的基準として初日からリスクインテリジェントな (リスクを配慮した) 企業文化が必要であることに気付いています。これはつまり、後からではなく、Cloud ERP 導入当初からリスク管理を行い、財務ソフトウェアにリスク評価活動を組み込んでおくということです。

### 「2019 年版 SANS Institute クラウドセキュリティ調査」で、

米国、アジア、ヨーロッパ、カナダの数百の企業を対象に、ビジネスセキュリティの準備体制に関する調査を行いました。この調査で、昨年、企業の 5 分の 1 近くがデータ漏洩を経験していることが判明しました。企業が巻き込まれるのを防ぐため、CFO はこれらの重要な質問を自問する必要があります。

- **自社のリスクは何か？**それらはビジネス上の意思決定にどのような影響を及ぼすか？収益、コンプライアンス、評判への潜在的な影響は何か？
- **自社はリスク管理にどのようなアプローチを取っているか？**どのように制御を実装しリスクの軽減を図るか？ユーザーアクセス、構成、トランザクションのアプリケーションリスクをどのように特定するか？エンタープライズ全体の状況を明確に把握しているか？
- **自社のリスク許容度はどうか？**短期的なリスクと長期的な機会とのバランスをどう取るか？
- **自社は制御戦略の実行に関して、どれほど統一し取り組んでいるか？**あらゆる部門にわたって、制御はどれほど統合されているか？リスク軽減戦略と制御はあらゆる部門にわたって組み込まれているか？
- **準備は整っているか？**継続的なモニタリングの戦略は何か？制御は自動化され予防的か？リスクをどれほど迅速に把握し対応できるか？
- **どのようなコラボレーションツールとコミュニケーションツールを使用しているか？**自社の戦略やリスク許容度に関する知識を従業員が持っているか？制御違反をどれほど効率的に報告できるか？



「より少ない人数で、より多くのことを達成することができます。標準化されたアプローチとリスク管理クラウドがなかったなら、常時40～50人のスタッフが世界中を飛び回っていたことでしょう。」

### Ashwat Panchal

Skecher 社 内部監査担当バイスプレジデント

タイムリーで正確な特定と報告は、セキュリティの脅威を管理する上で鍵となります。AI とクラウドはこれらの目標を達成するため、ますます使用されるようになっていきます。Cloud ERP ソリューションの一部である Risk Management により、ルールに基づく職務分散 (SoD) (一人の人が単独でトランザクションを統制することがない) の手動プロセスを排除し、分断されたアドオンのセキュリティ・リスク・監査ツールを交換し、高度なセキュリティとトランザクション監視の自動化により財務管理を強化し、監査ワークフローを合理化します。

Skechers 社は、内部監査とクラウドのコンプライアンスを変革することに成功しました。シューズメーカーの急速な成長をサポートし、新たに变化する規制要件に対応するため、Skechers 社の内部監査担当バイスプレジデントの Ashwat Panchal 氏は Oracle Risk Management を導入しました。同氏は、ビジネスの時間と資金を節約しつつ、地域のコンプライアンスを確保することができました。わずか6人のチームで45億ドル規模の企業の内部監査を成し遂げたのです。

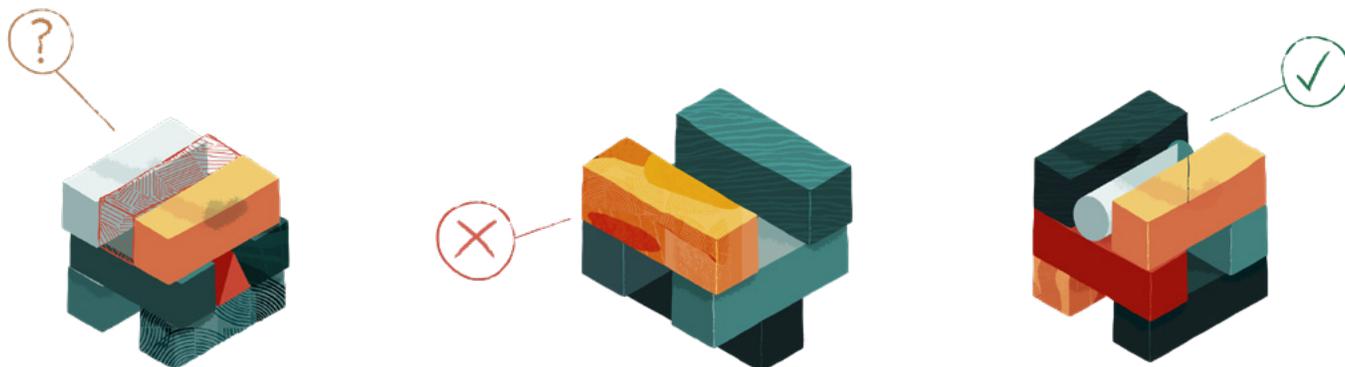
「より少ない人数で、より多くのことを達成することができます。」と Panchal 氏は述べました。「標準化されたアプローチとリスク管理クラウドがなかったなら、常時40～50人のスタッフが世界中を飛び回っていたことでしょう。」

## クラウド型リスク管理の8つの事例

財務・会計リーダーは、クラウド型リスク管理ソリューションを利用し、労力を要するリスク作業、特に保証・コンプライアンス・セキュリティ・不正が関係する多くのルーティンを自動化しています。主な事例は以下のとおりです。

- 1 ERP 導入時のセキュリティ設計を加速
- 2 コンプライアンスレポートの職務分散 (SoD) 制御を自動化
- 3 継続的なユーザーのセキュリティ監視
- 4 ユーザーのアクセス認証ワークフローをデジタル化
- 5 構成変更の継続的な監視
- 6 支払いやその他の重要な取引の継続的な監視
- 7 SOX、監査、認証ワークフローをデジタル化
- 8 エンタープライズのリスク管理ワークフローをデジタル化

これらのユースケースについて、[詳しくはこちら](#)をご覧ください。



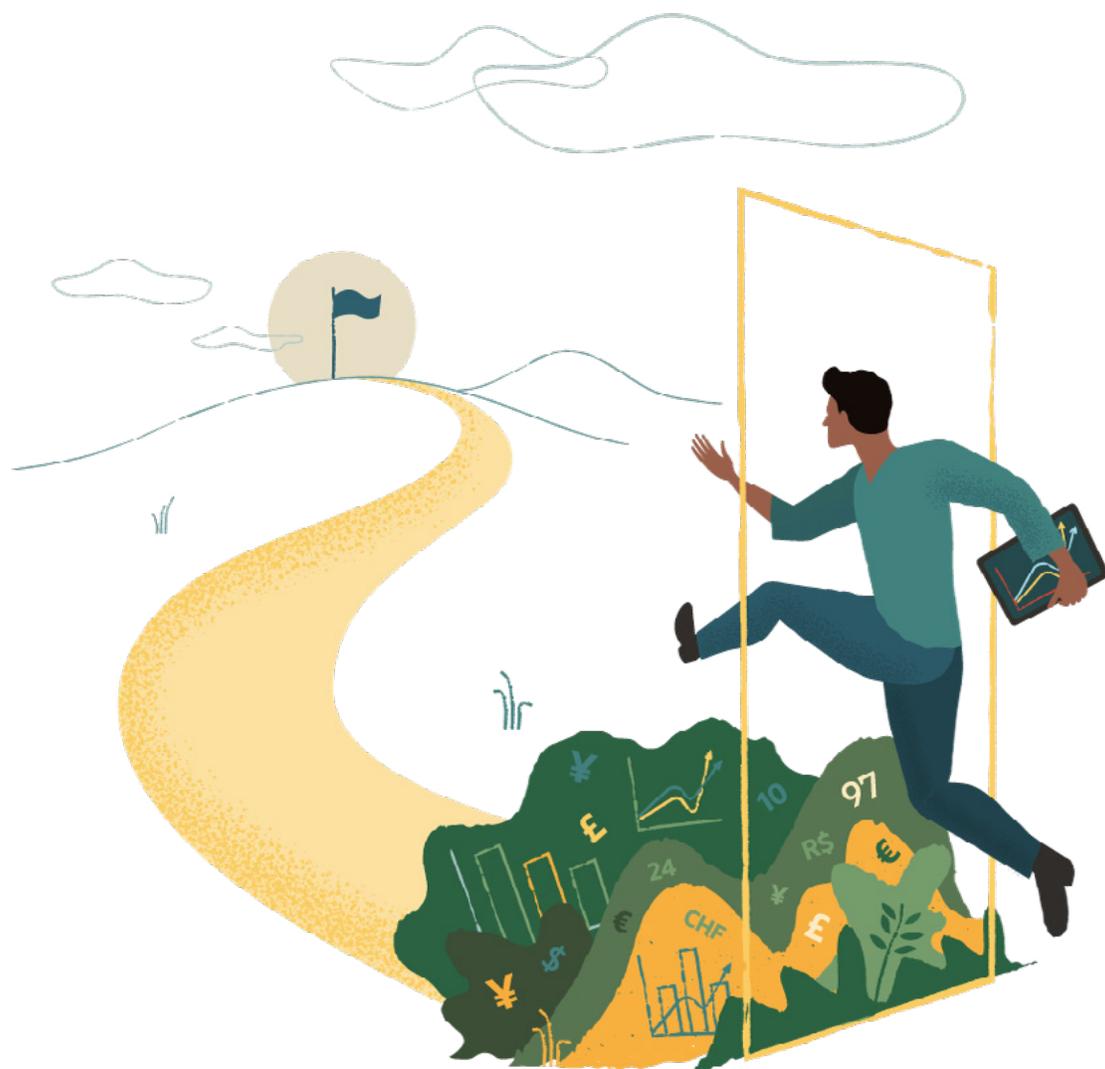
# 今がその時です

「この危機をイノベーションのチャンスにしましょう。」とオラクルの Guner 氏はアドバイスしています。足かせとなっている「レガシーな荷物」には別れを告げ、変化に対応するクラウドソリューションを導入し、それによりもたらされる成長と市場のチャンスを十分に活かすよう、同氏は財務・会計リーダーに強く勧めています。

歴史的にみると、今この時に適応してイノベーションを行う企業は、予測できる未来において競合他社より優位に立つことができるのです。

## さあ、あなたの番です。

財務・会計がいかに前進するか、[詳しくはこちら](#)をご覧ください。



ORACLE



Copyright © 2021, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. 本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載される内容は予告なく変更されることがあります。本文書は一切間違いがないことを保証するものではなく、さらに、口述による明示または法律による黙示を問わず、特定の目的に対する商品性もしくは適合性についての黙示的保証を含み、いかなる他の保証や条件も提供するものではありません。オラクル社は本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書は、事前に弊社の書面による許可を得ることなく、いかなる目的のためにも、電子的あるいは機械的を含むいかなる形式あるいは手段によっても複製または送信することはできません。